



1985年 8月 No.26

技術開発ニュース



本店特別発表特集

20周年記念 技術開発シンポジウム

技術開発シンポジウムの開催

..... 2

最近の配電技術の動向

..... 3

最近の系統安定化技術の動向

..... 9

大束径6 導体送電線の開発

.....14

制御通信部門におけるデジタル化の現状

.....21

最近の水力技術の動向

.....27

火力発電技術の動向

.....33

原子力発電所の技術の高度化について

.....37

運用上からみた情報処理環境の変化

.....43

特許・実用新案登録出願件名一覧表

.....48

新素材開発とファインセラミックスセンターの役割

財団法人 ファインセラミックスセンター 理事長 森田正俊

我が国の産業技術は、明治維新以来、欧米先進国からの製品輸入に伴う技術導入のかたちで蓄積、育成されて来た。この結果、現在では、高度な改良技術に基づく生産技術により大きな国際競争力を得るに至ったが、一方では先端技術産業分野での貿易摩擦等の国際問題も生じている。我が国が、今後、国際経済の中で共存共栄を図って行くためには、今や創造的技術開発の推進が求められている。

特に新素材の創造的技術開発は、我が国が国際経済社会の中において、先進国にふさわしい産業構造への転換を図って行く上でのリード役であると言える。

ファインセラミックスは、その優れた機能と特性から、既存産業の高度化、活性化に貢献し、宇宙・航空産業、バイオインダストリー、エレクトロニクス産業等の先端産業における技術革新のトリガーとなる新素材として注目を浴びており、今後の我が国の産業発展のため不可欠な材料である。しかし、ファインセラミックスは現在では電子部品などの機能材の一部で実用化が進んでいるものの、試験評価方法も未確立であり、工業材料としては未だ揺籃期にある。

ファインセラミックスセンターは、このような情勢下で技術的基盤整備という国家的要請を受け、民間が主体となって、産・官・学の協力体制の下に創設されたものであり、ファインセラミックスに関する創造的技術開発を標榜する「開発研究」を中核に「標準化の推進と評価試験」、「データバンキングと情報サービス」及び「中小企業の経営基盤の確立のための技術指導」と「人材の育成」を主な業務としている。

このため、大学、試験研究機関、民間企業との有機的連携を図り、我が国のファインセラミックス産業を積極的にリードするセンターとしての活動を目指すものである。

最後に、このたび名古屋に誘致されたファインセラミックスセンターを最終的に成功させるため、地元の皆様方の暖かい御支援を期待して止まない。

